

令和6年度使用小学校用教科用図書
調査資料

第11採択地区調査専門員

目 次

国 語	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
書 写	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
社 会	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
地 図	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
算 数	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
理 科	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
生 活	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
音 楽	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4
図 工	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5
保 健	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6
家 庭	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8
英 語	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9
道 徳	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2

令和6年度使用 小学校国語科（国語）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<言語活動について> ○ 単元扉に大きな写真やイラスト、下段に「国語の学習の流れ」が掲載されており、教材への興味・期待を持たせることができる。また、単元ごとに学習を通して身に付けることを「言葉の力」として示している。重ねて、見通しをもって学習に取り組むことが詳しく書かれており、具体的な言語活動が設定されている。 ○ 単元終わりの「ふり返る」ページは、他ページと色が違うことで、学習の大切なことが振り返りやすくなっている。また、「生かそう」では、他教科の学習との関連や日常生活での言語活用方法が具体的に例示され、身に付けた言葉の力を日常生活に生かすことができる。 △ 現在使われている教科書と俳句と短歌の扱う学年が違うので、もし教科書が変わる場合、短歌を学習しないことになってしまうので気を付けなければならない。 <情報の扱い方に関する事項について> ○ 図書館や社会教育施設の活用に関する単元では、写真を多く使い、学年に応じた活用方法や調べ学習の方法を具体的に示している。 ○ 情報を見極めながら読み、「情報のとびら」で知識の定着を図り、情報を活用して自分の考えを書くという単元間のつながりを意識した単元配列となっている。 ○ スマートフォンやインターネット（SNS など）、現代の世の中で使っているものが学習内容に入っている。 <その他> ・ デジタル資料が充実している。学習者用端末を活用したデジタルノートや練習問題を解くこともできる。 ・ 高学年（5・6年生）は学年1冊。
教育出版	<言語活動について> △ 学習のめあてが単元のはじめと学習の手引きに示してあり、単元を通して。単元扉を見るとどのような言語活動で何を学ぶのかがわかる。指導事項と言語活動の2つの観点で振り返りができるようになっている。しかし、学習の手引きでは上段の学習活動と下段の図解や反応例は、スペースをとるなど、対応がわかりやすくなっているとさらによい。 △ 巻頭「〇年生で学ぶこと」は領域ごとにまとめられており、学習したことが実生活のどのような場面で役立つのかが例示されている。しかし、どの単元でどの言語活動が活用できるのか具体的ではない。 ○ 「言葉」「言葉をふやそう」のコーナーを設け、文法的な知識や考え方をを使って読みを深めたり、教材と関連付けて語彙を増やしたりできるようになっている。 <情報の扱い方に関する事項について> ○ 5年「新聞を読もう」の単元後に「情報ノート」というように学んだことをいかした単元配列になっており、学んだことをすぐにいかすことができる。 △ 巻末付録に「情報のまとめ」のコーナーがあるが、内容の取扱いの少なさや参照ページを参考にしても学習のつながりのわかりづらさを感じる。 △ 資料の特徴が具体的に説明されておらず、どのような時に、どのような資料を活用すればよいのかがわかりづらい。 <その他> ・ 単元ごとに紹介される本の紹介「本を読もう」では、表紙だけでなく、あらすじも載せており、図書紹介が充実している。本に触れる機会を増やせるようになっている。 ・ 全学年上下2巻になっているので、年間1冊よりも軽く、持ち運びやすい。

<言語活動について>

- 単元の扉（はじまり）には必要最低限の学習のめあて（「問いをもとう」）のみでまとめられていることで、期待感をもって読み進めることができる。重ねて一人一人の問いから学習を始めさせる工夫がされていることで、問いから目標へとつなげることが可能となり、主体的に学習に取り組める。上段は学習活動、下段に学習のポイントとなっていて、わかりやすい。
- 巻頭に「国語の学びを見わたそう」を設け、既習事項の確認と一年間の学びの流れが一目で分かるようになっている。巻末の「たいせつ」のまとめと合わせて見返すことができる。
- 学習の流れが詳しく書かれていて、わかりやすい。目標やそれに対応した振り返り、他教科や他教材での学習のいかし方が特に詳しく書かれている。

<情報の扱い方に関する事項について>

- アンケートの取り方やまとめ方、資料の特徴などについて詳しく説明されていて、資料の活用の仕方がわかりやすい。
- 巻末付録の見開きに「図を使って考えよう」のコーナーが設けられ、情報や考えを整理したり、広げたりするときに役立てる手立てがわかりやすく載っている。
- 「集めた情報を整理して伝える学習」をしたあとに、グラフや図のよさをいかして文を書く単元の配列になっている。

<その他>

- ・ 巻頭「どうやってまなんでいくのかな」や巻末「言葉の宝箱」、「図を使って考えよう」は、紙質を変え、ページ幅が短くなっている。
- ・ 高学年（5・6年生）は学年1冊。

令和6年度使用 小学校国語科（書写）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<書写にかかわる基礎的・基本的な技能について> ○ 初めに持ち方・姿勢など、基本的なことが確認できる。右利き、左利きも同じ大きさの写真で示されていて目で見て確認できるように工夫されている。 ○ 単元の最初によい字とそうでない字の比較があり、比べることで学びの意欲がわくことと、正しい筆脈や組み立て方について学ぶことができる。 △ 毛筆で練習した字を鉛筆で書く欄がない。「生かそう」では、他の文字で練習する枠がある。 <主体的な学びを支える資料・構成について> ○ 巻頭に「おかしな○○」という話題を提示して、文字に対する困り感から興味を引かせる工夫がされていることで、これからの学習への意欲付けとなる。 ○ 書写の学び方の中に「考えたことを友達と話し合ってみよう」を設け、児童同士の学び合いの場面を提示している。 ○ 書写の学び方を示すことで、学習の見通しが持てるようになっている。書写で学んだことを普段の生活やほかの教科の学習に広げていくことまでを示している。 <その他> ・ 文字の歴史ページや文字に込められた思いについてのページがあり、文字について興味を持たせる工夫がある。 ・ QRコードを読み込むと、動画と音声で書くときの様子や筆遣いのポイントを細かく知ることができる。
教育出版	<書写にかかわる基礎的・基本的な技能について> ○ 文字の組み立て方が見やすい色で色分けされており、学習者が意識しやすい工夫がなされている。 ○ どの学習する文字も、朱色で書かれている文字も一緒に載っており、穂先がどこを通っているのかがわかりやすい。 ○ 試し書きとまとめ書きで振り返ることができ、さらに、主教材の文字で学んだ原理原則に当てはまるほかの文字で応用が図れるようになっている。 <主体的な学びを支える資料・構成について> ○ 巻頭に写真やマンガ、イラストを多く使い、その学年で学習する書写の学習について興味を引くような工夫がされており、児童の関心を高めることができる。 ○ 1時間の学習の進め方が示されており、学習の流れがわかり主体的に学習に取り組むことができるようになっている。 ○ めあてがはっきりと青色で書かれていて、つかみやすい。また、めあてに対して考えてほしいことも書かれているので、主体的に学びながら書くことができる。 <その他> ・ 筆遣いの説明に動物や擬音語・擬態語を使って例えることで、画の方向を意識できるようにしている。 ・ QRコードから硬筆と水書の書き方の動画を見ることができる、書く時のポイントを初めに伝え、それぞれの点画のポイントは音声では伝えていない。
光村図書出版	<書写にかかわる基礎的・基本的な技能について> ○ 1年生のはじめに「スタートブック」があり、文字を書き始める前に大切な、文字を書く姿勢、鉛筆の持ち方など基本的なことが確認できる。 △ 学年によって手本が鉛筆またはフェルトペンで書いたような書体の字であり、使用する筆記具によって、よい見本とならない場合がある。

△ 筆圧や筆遣いについて数字と言葉での説明が多く、力の入れ方や筆遣いが伝わりづらい。

<主体的な学びを支える資料・構成について>

△ 巻頭に導入のページがなく、約束や学習の進め方が書かれている。書写の学習に対する興味を引く工夫が少ない。

△ 教材の文字が大きく見やすい。紙面がすっきりとしている。一方で、活用の文字数は少なくなっている。

○ ねらいやたしかめようの中で、自分が書いたものの振り返りを進んで取り組むことができる。

<その他>

- ・ 書写体操・整理体操があり、姿勢と筆記用具の持ち方が定着するような体操が考えられている。

- ・ QRコードを読み込むと、右手用・左手用の動画があり、利き手に関わらず、筆の持ち方などを丁寧に指導することができる。

令和6年度使用 小学校社会科（社会）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜資料の種類や読み取りやすさについて（ICTも含む）＞ ○ 豊富な図表やイラスト、写真が使用されている。資料の大きさも大きく、見やすさやわかりやすさを意識して構成されている。 ○ インタビュー等、QRコードによる映像資料では、実際に教科書に出てくる人の映像が使用されており、より実感をもって学ぶことができる。 △ 全体的に文字による情報が多い印象を受ける。また、QRコードによる資料の数が比較的少ない。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について＞ ○ 「つかむ」「調べる」「まとめる」といった学習の流れがわかりやすく、「まなび方コーナー」では、思考を促し、表現をしやすくなるよう工夫されている。 ○ まとめの部分など、教科書に書き込みができるページが多く、今まで学習してきた「キーワード」を活用してまとめられるよう工夫されている。 ＜その他＞ ・ 5年（上下）と6年（政治・国際編 歴史編）で2冊に分冊されている。
教育出版	＜資料の種類や読み取りやすさについて（ICTも含む）＞ ○ 写真資料が大きく見やすい。6年歴史では白黒の写真がカラー化されており、児童の気づきを促すよう工夫されている。 ○ QRコードには5～6種類のマークがついており、そのマークによって資料の内容がどのようなものかわかるようになっている。 △ 学習の進め方のページが多い分、資料が読み取りにくくなっているところが見られる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について＞ ○ 教科書の使い方の動画や「つかむ」「調べる」「まとめる」の流れが各ページに記載されているなど、学習者が主体的に学べるよう、工夫されている。 ○ 「まとめる」場面では、既習の「キーワード」を活用して多様なまとめ方ができるような工夫が見られる。 ＜その他＞ ・ 5年以外はページ数他家よりも多く、情報量が多い印象を受ける。
日本文教出版	＜資料の種類や読み取りやすさについて（ICTも含む）＞ ○ QRコードによる動画やワークシート等の資料が充実しており、タブレットを活用しての学習を意識したものとなっている。 ○ 教科書内で取り上げられている地域事例には偏りがなく、全国の様々な地域からの資料が集まっている。 ○ グラフ資料が豊富で、児童が操作できるICT資料も見られる。また、各学年の学習内容に配慮したグラフが使用されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について＞ ○ 問題を発見→追究・解決→まとめ、という流れが展開しやすいよう、各ページの構成が工夫されている。 ○ 「まとめる」場面での話し合いの仕方についての解説や思考ツールを用いた分類方法などが3年の内容から登場している。 ＜その他＞ ・ 現代の諸課題への意識を高められるようSDGsすべての目標を取り上げている。

令和6年度使用 小学校社会科（地図）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫について＞ ○ 各国の特色を示す世界地図や地図の使い方の説明が冒頭から 14 ページにわたり掲載されている。特に地図帳の使い方に関する解説が丁寧である。 ○ イラストや写真が多用されており、地域の風景や文化、生活様式などが具体的にイメージしやすい内容となっている。 ＜地図の見やすさ、わかりやすさに関する表記、表現について＞ ○ 地名の文字や大きさ、産業の記号など、読み取りやすさや見やすさへの工夫や配慮が施されている。 △ QRコードによる資料の中には、都道府県別の地図がPDFデータで収録されているが、地図帳と同じものと白地図のみであり、活用の幅が限られてしまう印象がある。 ＜その他＞ ・ 日本の歴史に関する内容が世界史との関連が掲載されているなど豊富である。
帝国書院	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫について＞ ○ 巻頭で地図の約束、地図帳の使い方等、14 ページにわたり解説されている。大きめの図や地図記号等、児童が親しみをもって地図の学習に取り組めるよう配慮されている。 ○ 「地図マスターへの道」として問いが100問用意されている。地図活用の技能とともに位置や空間的広がりに着目して社会的見方・考え方を養えるよう工夫されている。 ＜地図の見やすさ、わかりやすさに関する表記、表現について＞ ○ 「広く見わたす地図」では、日本の領土について、各地方の位置関係や名産品などを把握しやすいよう、縮尺、文字や記号の大きさに工夫が見られる。 ○ QRコードによる資料について、特に各都道府県の様子に関する地図の内容が豊富で充実しており、都道府県別の学習に有効である。 ＜その他＞ ・ 巻末に掲載の編集協力者が多数おり、現場の声が反映されていることがうかがわれる。

令和6年度使用 小学校算数科（算数）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜数学的な見方・考え方を育成するための工夫について＞ ○ 問題解決のためのヒントを途中までで留め、児童が数学的な見方・考え方をはたらかせて解決する構成となっており、数学的な見方・考え方の育成が図られている。 ○ めあて、手がかり、見方・考え方、まとめが明確であり、特にまとめではどのような見方・考え方を使っているか児童にとって分かりやすい表現及び表記となっている。 ○ 単元末に「つないでいこう算数の目 大切な見方・考え方」が設定されていて数学的な見方・考え方や系統性を踏まえた単元のふり返りができる。 ＜習熟度に応じた活動を充実するための工夫について＞ ○ 練習問題とリンクした補充問題が全単元に設定されている。また、基礎・基本の問題と少し難しい問題の2段階で構成され習熟に応じて取り組める工夫がされている。 ○ 紙面にある練習問題をQRコンテンツにし、正誤判定、ヒントや解説、正誤の履歴表示などの機能があり、個に応じて練習に取り組むことができる工夫になっている。 ＜その他＞ ・ デジタルコンテンツの量と質の向上が図られており、児童が自力解決する際に、図形の操作や数値の変更など、様々な場면을試したり考えたりできるようになっている。
大日本図書	＜数学的な見方・考え方を育成するための工夫について＞ ○ 問題解決の流れを具体的に提示したり、答えや考え方の一部を見せずに児童に考えさせ気づきを促したりする工夫が多くみられる。 ○ 本時のまとめでは、考え方に焦点を当てた「発見！考え方」が掲載されている。学習を進める中で、これまでの考え方と統合できるように工夫されている。 △ 問題解決のためのヒントや説明が細かく分かりやすい反面、児童が自ら数学的な見方・考え方をはたらかせるための提示の仕方に工夫が必要である。 ＜習熟度に応じた活動を充実するための工夫について＞ ○ 練習問題、単元末の「たしかめよう」など、問題が充実していて、習熟度に応じた学習ができる。また、青丸と白丸で色分けされていることで、問題量の調整ができる。 ○ 巻末資料「プラス・ワン」が設定されていることで、習熟度、進度に応じて学習に取り組める。問題も単元ごとに見やすく、やや発展的なレベルで設定されていてよい。 ＜その他＞ ・ 「なるほど算数教室」、「学んだことを生かそう」など、算数が社会に生かされていることを実感したり学んだことを生活に生かしたりする問題が設定されている。
学校図書	＜数学的な見方・考え方を育成するための工夫について＞ ○ 数学的な見方・考え方が「考え方モンスター」で示され、活用場面を例示することで、児童が意識して数学的な見方・考え方を活用できるように工夫されている。 ○ めあてとまとめが分かりやすく、「つながりの？」、「つなげたいな」を提示することで、授業の流れに連続性が生まれ、児童が主体的に学習できるように工夫されている。 △ 割合の学習では、4マス関係表を用いた立式が強調されているため、児童が機械的な処理の習得だけにとどまらないよう、授業の工夫が必要である。 ＜習熟度に応じた活動を充実するための工夫について＞ ○ 「算数パトロール隊」のページを設け、児童が間違いやすい問題に対し、誤答やつまづきやすい内容を具体的に示してある。 △ 練習問題において身近な数値や学習したことを活用する問題が設定されているが、補充問題、デジタルコンテンツは少なく、更に個に応じた問題やヒントの工夫があるよい。 ＜その他＞ ・ AB版により紙面にゆとりがあり、作業や書き込みがしやすい製本となっている。

教育出版	＜数学的な見方・考え方を育成するための工夫について＞ ○ 思考の過程を「はてな・なるほど・だったら」の順で示し、数学的な見方・考え方ははたらかせ、児童の問いの連続で学習を進められるように工夫されている。 ○ 問題解決において未完成の数直線を用い、不足している部分を児童に補わせることによって、数の大小や順序、系列を視覚的、直感的に把握できるように工夫されている。 △ 本時のめあてとまとめの記述や表記が分かりにくく、本時は何について学ぶのか、何を学んだのか、学びのふり返りがしやすいように授業者の工夫が必要である。 ＜習熟度に応じた活動を充実するための工夫について＞ ○ 練習問題に加え、巻末の補充問題で「きほんの問題」と「ジャンプ問題」を設定し、習熟度に応じて取り組める工夫がされている。 △ まとめアニメーションや作図手順、操作を伴った教材のデジタルコンテンツを掲載しているがやや数が少ない。更に練習問題等のヒントなどもさらに増えるとよい。 ＜その他＞ ・ 単元末の「ふり返ろう」ではイラストで解説したり、児童のつまずきを支援する「考えるヒント」を示したりして、低位の児童に定着を図る工夫がされている。
啓林館	＜数学的な見方・考え方を育成するための工夫について＞ ○ 各時間の「めあて」「まとめ」のほか、単元の初めに単元全体のめあてが示されており、見通しを持って学習できるよう工夫されている。 ○ 単元中「算数ポケット」や単元末「学びのまとめ やってみよう」など、学んだことを活用できる発展的なテーマ、問題が設定されていて数学的活動の充実が期待できる。 △ めあての後に、考え方のヒントや数直線等の解答例も少なく、すぐにまとめが掲載されており、授業者の力量が問われる。 ＜習熟度に応じた活動を充実するための工夫について＞ ○ 巻末資料「学びのサポート じゅんぴ」により、低位の児童も学習に参加しやすい。また、「学びのサポート もっと練習」が設定され進度や習熟度に応じた取組ができる。 ○ 単元末の「練習」や「たしかめよう」では、デジタルコンテンツでヒントと答えを確認することができ、習熟度に応じてヒントを確認しつつ問題を進めることができる。 ＜その他＞ ・ 主問題に設定されているスマートレクチャーや、単元末の「練習」や「たしかめよう」ではデジタルコンテンツでヒントと答えを確認することができ、自学自習に活用できる。
日本文教	＜数学的な見方・考え方を育成するための工夫について＞ ○ めあての近くに「見方・考え方」が配置され、さらに、具体的な視点も記述されており、活用しやすい工夫となっている。 ○ 単元末で「わかっているかな」や「見方・考え方をみがこう」で、児童のつまずきや数学的な見方・考え方の成長を意識した構成となっている。 △ 問題解決のための支援となる吹き出しや内容が詳しく丁寧で、児童が自ら数学的な見方・考え方はたらかせるために、内容や提示の仕方に工夫が必要である。 ＜習熟度に応じた活動を充実するための工夫について＞ ○ 「わかっているかな」で、まちがいがしやすい問題が設定されていることで、低位の児童への習熟が期待できる。 ○ 巻末に「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の問題が設定されていることで、習熟度に応じて学習を行うことができる。 ＜その他＞ ・ 理解を深めるための動画やアニメーション、ヒントの提示など、デジタルコンテンツが掲載されている。コンテンツに見出しが表示されていて種類が分かりやすい。

令和6年度使用 小学校理科（理科）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について＞ ○ 問題解決の流れが「学びのライン」に沿って並べられており、思考の流れを意識した学習活動を行うことができる。 ○ 問題解決の過程で働かせる「見方・考え方」がキャラクターの台詞により明示されることで、児童が意識的に思考しやすくなっている。 ○ まとめの後の「広げよう！理科の発想」では、学んだことを日常生活で生かす方法を考えさせるようにつくられている。 ＜地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等について＞ ○ 観察・実験の手順や準備物が示され、写真や図が大きく、分かりやすい。特に、器具の使い方は、巻末にまとめて示されている。 ○ 当地区で盛んだった養蚕について、飼育の様子や富岡製糸場の写真もあり、伝統と文化の重要性を教科横断的にも学習することが可能になっている。 ＜その他＞ ・ QRコードの数は、全学年の合計で505個ある。 ・ 紙面が広いことで、文字が大きく読みやすい。レイアウトも工夫されている。
大日本図書	＜理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について＞ ○ 問題解決の過程を「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」のラインで色分けして示されており、児童が思考の流れを意識した学習活動を行うことができる。 ○ 理科の見方につながる着目点を、「ココに注目」で示すことで、予想したことなどを振り返りながら、より妥当な考えをまとめることができる。 ○ 「問題」に対して「結論」がシンプルに書かれており、「問題」の答えとして成立している。 ＜地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等について＞ △ 巻末に掲載されている観察・実験の既習内容については、単元内に掲載されているほうが、学びのつながりや連続性を意識しやすい。 ○ 理科と科学技術との関連を取り上げた資料があり、理科が地域社会に役立っていることが分かるよう工夫されている。 ＜その他＞ ・ QRコードの数は、全学年の合計で569個ある。 ・ QRコード先の動画で何を確認できるのか明記されているので、児童や教師が観る必要の有無を確認しやすい。
学校図書	＜理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について＞ ○ 問題解決の力を「理科モンスター」として示すことで、着実な資質・能力の定着を図る工夫がある。 ○ 単元の導入の「ふりカエル」のQRコードから、過去に学習した単元で関連性のある学習内容をクイズで復習することができるようになっている。 ○ 問題解決の過程で身につけたい「資質・能力（理科モンスター）」が単元冒頭と単元終末に対応して明記されていることで、学びの振り返りができる。 ＜地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等について＞ △ 「風で動く車」を教材として使用したほうが、「ゴムで動く車」の実験後の考察において、「風の力」と「ゴムの力」は、同じエネルギーであることが理解しやすい。 ○ 春はバードウォッチ、夏はセミ、秋はコオロギ、冬は冬眠中の昆虫など、四季の身近な生物を紹介し、年間を通して自然に関心を持たせるように工夫されている。

	<その他> ・ QRコードの数は、全学年の合計で550個ある。 ・ 日常生活等の紹介があり、理科とのつながりがあることが分かりやすい。
教育出版	<理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について> ○ 単元導入の「学習前の〇〇さん」と単元末の「学習後の〇〇さん」を示すことで、学習を通して、自分の成長を実感できる。 ○ 単元導入の1ページ目に、「学習のつながり」として、小中一貫の視点で7年間の理科の系統性が明記されている点が良い。 ○ 「〇学年の力」というマークや、見方・考え方を働かせる場面では、「カギマーク」と「マーカー」が付いており、児童の思考を援助している。 <地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等について> ○ 観察・実験の準備物が、「観察・実験」の最初に示され、チェック欄で確認できる工夫がある。また、観察・実験をするための視点が書かれている。 △ 当地区の産業でもあった養蚕について少しでも触れるように単元構成されているとよい。 <その他> ・ QRコードの数は、全学年の合計で237個ある。 ・ 児童が知るべき言葉について、太字だけでなく黄色で色付けしている点が見やすい。
啓林館	<理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について> ○ 問題解決の流れが、「学びのライン」に沿って並べられており、児童がわかりやすくかつ思考の流れを意識した学習活動を行うことができる。 ○ 問題解決の過程で働かせる「見方・考え方」にマーカーが引いてあることにより、児童が意識して思考しやすくなっている。 ○ 巻頭の「理科の楽しみ方」では、問題解決の過程を、「見つける・調べる・まとめる」の3段階に分け、理科の「学びのサイクル」をわかりやすく示している。 <地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等について> ○ 観察・実験の準備物が「観察・実験」の最初に示され、チェック欄で確認でき、「観察・実験」と「結果」が見開きページにならないような工夫がある。 ○ 巻末の「植物たんけんシート」が教科書から切り離すことができ、水や汚れにも強い加工が施されている。スケールもあり、屋外で観察しやすい。 <その他> ・ QRコードの数は、全学年の合計で362個ある。 ・ 「理科の広場（発展）」では、中学校の学習内容が豊富に記載されており、児童たちの興味に応じて紹介できる点が良い。

令和6年度使用 小学校生活科（生活）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜絵や写真等資料のレイアウトについて＞ ○ 視点を工夫した様々な角度からの写真を大きく中央に配置し、季節ごとの暮らしの絵を同じ構成にして季節を比較しやすくしている。 ○ まとめとしての児童同士の交流を、ページ全体を使いイラストで示している。 ○ 随所に「やくそく」「ちゅうい」等のマークを配置している。 ＜体験的活動の例示について＞ ○ 活動を広めるためのヒントや「見方・考え方」の学習に沿った具体例が挙げられており、指導に活用しやすい。 ○ 夏の遊び図鑑や秋のおもちゃ図鑑の例示がわかりやすい。また、巻末に活動便利手帳として体験的活動を例示している。さらに「自分でできることをしよう」の単位では、具体的な活動が多く例示されている。 △ 単元ごとのページでは、発展的な活動例示がやや少ない。 ＜その他＞ ・ QRコードを使ったインターネット資料が充実しており、一覧をもとに検索もしやすい。また動画資料やクイズ問題が多く用意されている。 ・ スタートブックを巻頭に載せ、入学前からのスムーズな接続を意識している。 ・ 保護者向けのコーナーがつくられているが、教科書は家に持ち帰ることが少なく、保護者の目に触れることもあまりないので別の形での対応も考えられる。
大日本図書	＜絵や写真等資料のレイアウトについて＞ ○ 活動場面の写真やイラストを大きく提示し、活動意欲を高める工夫がされている。 △ やや余白が多く、色づかいが薄い。吹き出しの囲みのない部分も工夫が欲しい。 △ イラストでは、夏に長袖の子供が多いことなど季節感がわかりづらい。また、2年生の街探検の学習で着目させたい風景が上巻に掲載されている。 ＜体験的活動の例示について＞ ○ 児童同士の交流を増やしたり、思考を深めたりする吹き出しと共に体験的活動が例示されている。 △ 上巻に野菜と花が同時に取り上げられており、この地区では野菜は2年生で取り上げているので、実態に合っていない。動物の飼育も行っていない学校が増えているため、同様である。 △ 単元ごと例示の量に差があり、秋のおもちゃ作りの材料や作り方の例示が少ない。 ＜その他＞ ・ 活動例はQRコードをもとにしたインターネット資料に多く掲載されている。 ・ 人とかかわりが深まるようなきらきら言葉、生活言葉の豊富な掲載は子供の語彙が増えてよい。 ・ 書き込み形式の教科書となっているが、実際の活動に時間を費やすことや掲示のためのカードを使うことを考えると、必要性があまり感じられない。
学校図書	＜絵や写真等資料のレイアウトについて＞ ○ 写真や絵をふんだんに活用し、どの単元も同じ構成により学習のイメージがしやすいよう工夫している。 ○ 野菜の育て方例やワークシートなど多様で、選択の幅を持たせている。 △ 単元のまとめに関する写真やイラストが少なく、季節を比較するイラストの配置が前半に偏っている。

	＜体験的活動の例示について＞ ○ 巻末に発表の仕方や道具の使い方についての例示が多く載せてある。物知りノートに詳しく書いてあり、ほとんど網羅している。おもちゃも数多い。 ○ キャラクターの発言をもとに活動の必要性を児童から引き出そうとしており、友達の助言等を見て自ら体験等を考えられるようにしている。 △ 他教科との関連を意識した資料が示されているが、教科名の表示がないので工夫が必要である。 ＜その他＞ ・ 学習後も活動を通して得たスキルを持続させたいとコーナーを設定している。 ・ QR コンテンツの素材が少なく、独自の映像や教科書により合った画像がもう少し欲しい。 ・ 活動場面のイラストや写真の中でタブレットの活用例がやや少ない。
教育出版	＜絵や写真等資料のレイアウトについて＞ ○ 表情豊かな子供の写真をどのページにも活用していることや、ページ下に「はっけんろうど」が配置されていることで、活動の楽しさを提示するつくりとなっている。 ○ 四角い写真がきれいに配置され活動から振り返りまで順を追って掲載している。またタブレットを使用した活動を取り扱っているものが多い。 △ 下巻の季節の投げかけ「夏を楽しむくふうはどこ」や「北風がはこんでくるものはなあに」などは限定的で答えを導きづらく工夫が必要である。 ＜体験的活動の例示について＞ ○ 下巻でおもちゃの作り方や生き物のことを伝え合う活動例がの掲載が豊富である。 △ 上巻の秋のおもちゃの具体例がやや少ない。 △ 写真や書き込み欄等が中心になっており、学びのヒントが少なく工夫が必要である。 ＜その他＞ ・ QR コードでその場面の音読が聞けることや、デジタル図鑑が工夫され自分で調べる練習になる形態であること、クイズを多用して意欲を持たせる工夫がなされていること、動画の掲載が多いことなどインターネットコンテンツが充実している。 ・ もしも・・・と空想するコンテンツを毎単元入れ、児童の主体的に取り組む態度を育成しようとする意図が感じられるが、「わくわくすいっち」は活用しづらい。 ・ 「理科への窓」等、他教科を意識した構成がところどころに入れている。
光村図書出版	＜絵や写真等資料のレイアウトについて＞ ○ 「こんなことあるかもね」など、ところどころページの右側のイラストや他の吹き出しなど、登場人物のセリフが多様な価値観を示すものとなっている。 ○ イラストとの違いをつけるために写真で学習過程がわかるようにしている。 △ 絵本作家の書下ろしイラストは人気もあるようだが、表情が少なく児童の気づきにつながりづらい。 ＜体験的活動の例示について＞ ○ 子どもの活動写真が多く、「学び方のヒント」や気をつけることなどが写真やQRコードと言葉で明確にしてありわかりやすい。 △ 小単元ごとに振り返りがあるが、気持ちへの問いが中心になってしまっているため工夫が必要である。 △ 種の植え方の説明が少なく工夫が必要である。 ＜その他＞ ・ インターネットコンテンツは少なめだが、切り離して使える「きせつのなかまたち」、小冊子で「ひろがるせいかつじてん」があり、巻末に別冊としての付録がある ・ 保護者の皆様へというレイアウトを用いて発信をしているが、生活科の教科書は学校に置いて帰ることが多く、他のことに使いたい。 ・ 資料が別冊で取り外すことができるが紛失しやすいという面も考えられる。

啓林館	＜絵や写真等資料のレイアウトについて＞ ○ 小学館 LIVE と連携し、季節ごとのコンテンツを豊富に見比べることができる。 ○ 単元の流れをわかりやすく示すための、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階に構成され工夫されている。 △ 教科書のサイズが他社に比べ小さく、ページ数は多いものの他社と大きく変わらないことから軽量という利点はあるが写真やイラストのサイズ等、分量がやや少ない。 ＜体験的活動の例示について＞ ○ 板書の例示や「学びのヒント」として活動例が示され、教師や児童が見通しをもって活動しやすい。 ○ 上下巻末の「がくしゅうずかん」では、活動をより楽しめるようにと、学習の仕方が紹介されており、また、上巻巻頭に「すたあとぶつく」が、下巻巻末に「3年生へのステップブックが」が付録として追加され、接続を意識するものとなっている。 △ 下巻は上巻とやや違い、アレルギー対策の表示がないなど工夫が必要である。 ＜その他＞ ・ 交通安全に関するクイズなど児童の興味関心を高める工夫がなされている。 ・ アレルギー対応、家庭環境、地域等、様々な配慮が感じられる。 ・ QRコードから学びウェブにアクセスすると目次のあるデジタル探検ブックを見ることができ動画も充実している。
-----	--

令和6年度使用 小学校音楽科（音楽）調査資料

発行者	調査内容
教育出版	＜児童の学習意欲の喚起、教師の課題設定のしやすさについて＞ ○鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入では、多様な活動や実際の手で示された指使いの写真により、児童が意欲的に学習できるよう工夫されている。 ○QRコード（まなびリンク）を読み取ることで、奏法や解説動画、音源、ワークシート、解説資料などにすぐに触れることができるよう工夫されている。 △音楽づくりは、様々な活動が示されているが、教師の専門性の高さが求められることから、専科教員でも担任でも指導しやすくする工夫が必要である。 ＜楽曲の取り扱いについて＞ ○低・中学年では、様々な曲を聴き比べたり多くの楽曲に触れたりすることで鑑賞の楽しみを味わえるよう工夫されている。高学年では、鑑賞教材に楽譜等の資料が掲載され、楽曲等の魅力を感じ、〔共通事項〕を手がかりに聴くことができるよう工夫されている。 △複雑なリズム・臨時記号の多い楽曲が掲載されている。 ＜その他＞ ・教材に合わせた写真や巻末に掲載された楽器の奏法等、視覚的に理解しやすいように工夫されている。 ・ユニバーサルデザインの工夫が必要である。（文字の細さ・青地や緑地に黒の文字の配置等）
教育芸術社	＜児童の学習意欲の喚起、教師の課題設定のしやすさについて＞ ○題材のねらいに沿って、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材がバランスよく配置され、様々な活動を通して、音楽の力を身に付けることができるよう工夫されている、 ○学習活動が、「考える（思考力・判断力・表現力等）」、「見つける（知識）」、「歌う・演奏する・つくる（技能）」で示されており、「何を学ぶか」が可視化されている。 ○「そだてよう」は、常時活動として扱うことができ、拍子感やリズム感の育成、友達と合わせて演奏する技能を高めることなどができるよう工夫されている。 ＜楽曲の取り扱いについて＞ ○2年生から郷土の音楽が導入されており、6年生までにお囃子、箏、尺八、箏を含む日本の合奏形態へと系統性をもった学習が行えるよう配慮されている。 ○単純なリズムや3、4拍子の曲が多いため、無理なく演奏でき、題材のねらいに迫る指導ができるよう工夫されている。 ＜その他＞ ・ユニバーサルデザインに配慮されている。（文字の太さ・やさしい色調・題材のまとまりごとの色分け等） ・リコーダーの運指の図に指番号が示されており、学習活動を進める際の手立てとなるよう工夫されている。

令和6年度使用 小学校図画工作科（図画工作）調査資料

発行者	調査内容
開隆堂	＜自分の思いをふくらませて、知識や技能を生かして、創造的に発想や構想できるよう工夫されているかについて＞ ○QRコードから活動や用具についての動画を見ることができるため、新たな学習過程を視覚的に捉えることができるとともに、今まで学んだ技法を確認しながら活動することができる。 ○児童に問いかける魅力的な題材名の提示により、自分の思いを基に創造的な発想や構想できるように工夫がされている。 ＜造形的な自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているかについて＞ ○学習指導要領の3つの観点がキャラクターで示され、子供たちにとって短く分かりやすい目標提示になっている。また、造形的な「形や色、イメージ」と見方や感じ方ができるよう、題材の中で大切にしたい観点が、一目で分かるように工夫されている。 ○目次にも3つの観点が掲載されていて、題材をバランスよく学習することができる。 ＜その他＞ ・題材とSDGsのつながりや教科横断的な視点が詳しく書かれているため、生活や社会の中でのつながりや、多様な見方ができるようになっている。 ・用具の安全な使い方について、写真や動画で分かりやすく手順よく解説されているため、児童が自ら学習を進められるようになっている。 ・冒頭に作家作品や学びの意義がメッセージとして掲載されている。
日本文教出版	＜自分の思いをふくらませて、知識や技能を生かして、創造的に発想や構想できるよう工夫されているかについて＞ ○手や体全体を使って生き生きと活動に取り組む姿や、素材の良さを生かしている写真が多く掲載され、作品との対話を大切にしたり、児童の思いが膨らんだりするような工夫がされている。 △発想や構想を広げる言葉の文字が小さく細かく、単調なデザインであるため、視覚的に訴えられるとよい。 ＜造形的な自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているかについて＞ ○アートカードが付録にあり、QRコードで読み取って、ゲーム感覚で造形的な「形や色、イメージ」や新しい見方や感じ方ができるように工夫されている。 △学習指導要領の3つの観点が記号で示されているが、文字の配置、大きさにインパクトがあると、子供たちに伝わりやすい。 ＜その他＞ ・教科書の下の方に、用具の安全な取り扱いへの注意や片付け、SDGsでの再利用について掲載されている。また、巻末でも用具の使い方が詳しく掲載されている。 ・用具の使い方について擬音を使った表記がされており、視覚的だけでなく、用具を適切に扱う際の感覚が伝わりやすくなっている。 ・表現と鑑賞の一体化を図りながら、指導過程が工夫されている。

令和6年度使用 小学校体育科（保健）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか＞ ○章の始まり、学習のテーマと他教科との関わりを明記することで、保健学習の広がりを感じるきっかけを与えている。 ○「調べる・解決する」を2ステップで記載し、見開き1ページでまとめることで、自己の考えをまとめ友だちと考えを共有し深めることができるようになっている。 ＜児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか＞ ○単元の導入が写真で、実生活とのつながりを意識しやすい工夫がなされている。 ○QRコードコンテンツが豊富であり、視覚的に分かりやすい。トップページから必要なコンテンツをすぐに見つけられるようにしている。 ○「思考ツール」という、タブレットを活用して自身の思考を深めるコンテンツやアニメーション・動画が豊富に用意されている。 ＜その他＞ ・肌の色や車いす使用者など、児童に自然に多様性を意識させる表現がされている。
大日本図書	＜生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか＞ ○章ごとの学ぶ内容は最小限に抑えてあり、章の最後に「もっと知りたい」という項目を置き、学習を深め応用できるようになっている。 ○折り込みカードを活用することで、学習内容について自分の考えを持って取り組めるようになっている。 ＜児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか＞ ○教科書からQRコードリンクが貼られている「たのしい保健」サイトが使いやすい。リンクは単元ごとのページに飛び、学ぶ項目を一覧で見ることができる。 ○各単元の終わりで、発見やふり返りができるページがある。 △教科書に書き込みをする部分が「つかもう」と「活かそう」に重点化しているが、「調べよう」でも自分の考えを書けるような、問題解決型の資料提示が工夫されているとよい。 ＜その他＞ ・SDGsについて、見開きでページがあり、保健学習との関わりについて明記してある。
大修館書店	＜生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか＞ ○授業の導入時に、児童が身近な健康課題に目を向けられるような発問が設定されており、児童が日常生活で様々な見方・考え方を持てるように工夫している。 ○適度な記入スペースを用意することで、児童が自分の考えをまとめることができるような工夫がされているが、やや量は少なめである。 ＜児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか＞ ○有名選手や著名人からのメッセージを掲載し、学習に対する意欲を高め、興味を喚起する工夫がみられる。 △イラストでの提示が全体的に多く、写真のさらなる活用などの工夫が必要。 △情報量が多く、児童が自分の考えをまとめづらいページがいくつか見られた。資料の取捨選択・精選の工夫があるとよい。 ＜その他＞ ・4年生の発展学習として、多様性について考えることができる。

文教社	<生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか> ○健康安全とは何かという本質的な問いに目を向けながら、学習内容に迫ることができるように工夫がされている。 △資料集としての活用ならば良いが、教科書に書き込みをできるスペースが少なく、児童が自分の考えを持ち、深めるためには現場でさらなる工夫が必要となる。 <児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか> ○「もっと考えよう課」というページで、発展教材や「私のすくすく宣言」という形で深い学びにつなげようとしている。 △動画等へのリンクが比較的少なく、ICTでの積極的な活用に工夫が必要。 △実際に活躍する様々な選手が登場するが、万人に有名な選手は少ないのが現状である。児童の興味関心に配慮した人選をする工夫が必要 <その他> イラストや写真からは多様性を感じる表現は少ない。
光文書院	<生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか> ○「生かそう」でこれからの自分の生活課題について表現する場が作られており、学んだことをより具体的に自分事として考えられるようになっている。 ○「広げよう・深めよう」ではデジタル資料を活用し、児童がより深い学びを得るきっかけになるような工夫がされている。 <児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか> ○「見つけよう」「話し合おう」など、学習段階の明記があり、積極的な学び合いを促していたり、学習のまとめページで深める学習を促していたりしている。 ○多くの著名人がインタビューに答えていたりメッセージを寄せていたりと言説力があり、学習意欲を高めるきっかけとなっている。 △単元の導入に児童の興味を引きつける工夫があるとさらによい。 <その他> 多様性を意識したイラストが多用されている。SDGsについてのページを確保している。
学研 Gakken	<生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか> ○どの単元も「自分で考える」「友だちやみんなと話し合う」「学んだことを生かす」という学習サイクルで学ぶことにより、思考力・判断力・表現力を確実に身につけることができる。 ○課題解決に向けて、自分の考えを記述する場を適切に用意している。 <児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか> ○デジタルコンテンツが豊富にあり、ワークシートや関連リンクが活用できる。 ○学習の進め方の3ステップがわかりやすく、単元の見通しを持って授業ができる。また、「どうすればよいか」など思考・判断・表現の評価がしやすいような書き込み部分を用意している。 △写真資料の提示はやや少ない。また、著名人の起用が比較的少ない。 <その他> ・SDGs 関連の内容は少なく、多様性を意識させる表記も少ない。

令和6年度使用 小学校家庭科（家庭）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜実践的・体験的な活動の充実について＞ ○ 基礎的な知識・技能について「巻末資料いつも確かめよう」に記載されており、野菜の切り方など実践的な活動をするときに開いて見やすいレイアウトになっている。 △ 安全配慮事項である「アレルギーへの対応」について、簡易な記述のみである。必要な知識を身に付け、対応や配慮ができる資料が必要である。 △ 作品例や実習例などの紹介の数が少なく作成手順等の説明がない。児童の意欲や関心がわからないので、家庭での実践に教科書を活用しにくい。 ＜問題解決的な学習への対応について＞ ○ 題材を3つのステップで展開し、課題解決に向けて考え、表現することが出来るように工夫されている。 ○ 題材のはじめに「家庭科の窓」として生活を見つめる4つの視点を示すことで、生活の中から課題を発見し、解決に向けて学びあうことが出来るように工夫されている。 ＜その他＞ ・ QRコードにアクセスすることで、画像や動画を見ながら学習することが出来るようになっている。 ・ ユニバーサルデザインの観点から、UD体を使用していたり、系統性を可視化できるようにマークやカラーで識別したりしている。
開隆堂	＜実践的・体験的な活動の充実について＞ ○ 調理や製作などの実習のページでは、見開き2ページを使って横流れに掲載しており、全体の流れ、見通しを持ちやすくしている。 ○ 作品例や実習例などの紹介や作成手順等の説明があり、児童の意欲や関心が高まり、家庭での実践に教科書を活用することが出来る。 △ 説明や資料が多く使われているが、それぞれが小さく見にくくなっている。見ながら実践していくことが出来るような配慮ができるとよい。 ＜問題解決的な学習への対応について＞ ○ 導入では、児童の関心を引く写真やイラストを掲載することで、見方や・考え方を働かせ、課題を見つける手立てとなる。 ○ 題材毎に「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」のステップで構成され、自分の生活の中から課題を見つけ実践し、振り返りもやすくなっている。 ＜その他＞ ・ QRコードにアクセスすることで、画像や動画を見ながら学習することが出来るようになっている。 ・ UD体を使用していたり、系統性を可視化できるようにマークやカラーで識別したり環境に配慮された用紙やインクが使用されている。

令和6年度使用 小学校外国語（英語） 調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<自己表現活動について> ○目的・場面・状況を意識した言語活動（伝え合う）が意図的に配置されており、単元の目標に迫ることができる。大きな括りで目標に即した表現活動も用意されている。 △各単元の目標とそれに到達する活動がスモールステップで用意されているが、最終ゴールとなる活動「Enjoy Communication」の状況設定に工夫が必要である。 <使いやすさについて> △ノート一体型の構成で、4技能5領域の配分において「書くこと」を重視しており、他者の倍近くの書く活動がある。児童の実態に即した時間配当の工夫が必要である。 ○評価の観点が明確になっており、児童が見通しをもって学習に取り組めるとともに、教師にとっても4技能5領域を意識した指導や評価がしやすい工夫がなされている。 ○5・6年生の2か年の言語活動数が、「聞くこと」「書くこと」「話すこと（やり取り）」を中心に他者に比べて非常に多く設定されており、言語活動の内容も充実している。 <その他> ・巻末の「Can-Doの樹」で、2年間の学習を見通せるようになっている。2か年分の別冊「My Picture Dictionary」もあり、デジタルコンテンツも充実している。
開隆堂	<自己表現活動について> ○主体的・対話的で深い学びを意識し、ペア・グループ・学級全体で考えや気持ちを伝え合う「話すこと（やり取り）」の言語活動が重視されており、工夫がなされている。 ○発達段階に合わせ音声によるインプットを重視するとともに、2時間に1回の「Small Talk」で既習の語句や表現を繰り返し使用することで定着を図るよう工夫されている。 <使いやすさについて> ○単元ごとにめあてと、活動の目標が明確になっているとともに、目標までの活動の流れが一目でわかる単元チャートで見通しをもって学習ができるよう工夫されている。 ○中学校への円滑な接続の視点から、言語材料や言語活動が中学校の学習との繋がりを強く意識した構成となっている。全ての領域と観点もバランスよく配置されている。 ○学習効果を高めるため、他教科との関連や今日的な課題について教科横断的に深められるよう記号で示すとともに、題材も児童の興味・関心を喚起するものとなっている。 <その他> ・単元のそれぞれの言語活動に評価の観点が記載されているとともに、巻末の「Can-Doチェック」での学習の振り返りはポートフォリオにもなるよう工夫されている。
三省堂	<自己表現活動について> △5領域の中の「話すこと（発表）」の活動が、他者に比べ非常に多く設定されている。他の領域の表現活動とともにバランスよく段階的に指導することが求められる。 △発達段階に応じた音声重視のインプットとともに大切なペアやグループでの「話すこと（やり取り）」の双方向の活動がやや不十分であり、モデル動画も工夫が必要である。 <使いやすさについて> ○学期ごとUnitが「Hop」「Step」「Jump」と段階的な構成で、学習過程における言語活動も「見て・聞いて・話して・使って」の構成で統一されている。

	○各単元の「A B C Fun Box」や「T r y」で遊び的要素の活動を用意し、児童の興味・関心を喚起しながら特有の場面でよく使われる表現が身につくよう工夫されている。 ○Chant の内容や種類が豊富で、Sound Chant、Word Chant、Phrase Chant があり、音楽やリズムとともに語彙やフレーズ、英語のやり取りを慣れ親しませることができる。 ＜その他＞ ・別冊で「My Dictionary」があり、その中の「英語でできること【CAN-DO】」で自己評価をすることができる。現時点でデジタルコンテンツの内容に不完全さが見られた。
教育出版	＜自己表現活動について＞ ○各単元に、ペアやグループで協働しながら対話を行ったり、相手の立場や状況を考えてながら演じてみたりする「Activity」「Final Activity」の活動に工夫が見られる。 △単元の目標について、最初に「Think」のコーナーで予め考えさせる構成になっている場合が多いが、目標に対するゴールの自己表現活動に一貫性が欠けるものが見られる。 ＜使いやすさについて＞ ○「Let' s Say It Together」で、チャンツのように音やリズムにのりながら目標となる基本表現と一緒に発音練習できるとともに、既習事項の反復練習にも繋がっている。 △言語活動数が他者に比べて少なく、「Activity」もチャプターに分かれていない。音声モデルの発音や相槌・反応表現、「話すこと」の言語活動にも工夫が必要である。 ○6年生には「My B o o k」がついており、これまでの既習事項を活用して自分のことを書いてまとめることで、オリジナルのミニブックができるよう工夫されている。 ＜その他＞ ・「Let' s Sing」が各単元によって扱うタイミングが違うとともに、一曲が長く、リズムが難しいものを扱っている。デジタルコンテンツの内容にも工夫が必要である。
光村図書	＜自己表現活動について＞ ○各単元の自己表現活動が、目的・場面・状況を明確にした具体的で必然性のあるものであり、大きな括りでの表現活動「You can do it」も用意され活動が充実している。 ○「話すこと（やり取り）」では、会話の円滑さや豊かな発話を意識し、既習事項の活用や相槌表現を充実させ、実践的なコミュニケーション能力の育成を重視している。 ＜使いやすさについて＞ ○学年を通した目標と学年を3段階に分けたテーマ設定で、長期・短期の視点で学習に見通しがもてるとともに、スモールステップを踏みながら目標に到達する工夫がある。 ○4技能5領域において、「聞くこと」を重視しながら、他の「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の活動がバランスよく配置されている。 ○巻末の「ALL ABOUT ME」で各単元の目標に即したまとめの自己表現活動を蓄積することで、1年間の自分の学習過程を振り返るオリジナルシートを作成することができる。 ＜その他＞ ・「C a n - D o リスト」が5領域別に区別されており、児童が振り返りで自己評価ができるとともに、指導する側にとっても指導と評価の一体化に役立てることができる。
啓林館	＜自己表現活動について＞ ○インプットからミニ・アウトプットの意図的繰り返しによって、知識の活用が無理なくできるよう工夫されており、活動もペアやグループの活動場面を多く設定している。 ○「この英語はどんな意味だろう？」「どんな場面で使えるのだろう？」等、言語の働きや言語の使用場面を考えさせ、目的意識をもった活動を大切にしている内容となっている。

	<使いやすさについて> △単元ごとの目標と3つの「Step」のめあても表示され、活動のゴールも明確であるが、年間配当時間に予備時間が設けられ余裕がある反面、指導者の力量が問われる。 ○「読むこと」「書くこと」の言語活動は、複数の単元Unitをセットにして構成されている。学期ごとに「Review」があり、パフォーマンステストとしても活用できる。 △イラストがシンプルで、登場人物の個性が目立たない。対話の場面絵や言語活動モデルの映像も登場人物の識別が難しい面があり、内容把握の手立てに工夫が必要である。 <その他> ・巻末にある「Can-Doリスト」で、児童が学習の振り返りで自己評価ができるとともに、指導する側にとっても指導と評価の一体化に役立てることができる。
--	---

令和6年度使用 小学校道徳（道徳）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について＞ ○ 発達段階と時代に合った情報モラルの教材を扱い、身近な場面設定を基に考えられるよう工夫されている。教材とは別に情報スキルについての動画が用意されている。 ○ 発達段階に応じてどの学年でも現代的な課題について、他教科の学習活動や家庭・地域とのかかわりを意識したコラムを組み合わせ、考えを深められるようになっている。 ○ 各学年に「生命の尊さ」の教材が3つ掲載され、児童の自殺が増える9月に教材とコラムを組み合わせ生命の尊厳について考える「いのちのユニット」が配置されている。 ＜考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫について＞ ○ 教材の精査を綿密に行っていることで、一方的な価値の押し付けととらえる記述を削除するなど、多様な考えを引き出すための工夫がされている。 ○ デジタルコンテンツが充実しているため、全ての児童が教材に対して深く理解した上で話し合いができるような工夫がされている。 ＜その他＞ ・QRコードが全教材についている。
教育出版	＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について＞ ○ 「情報モラル」と「いじめ問題」については全学年で重点テーマと設定されるとともに、それぞれの学年でもさらに別の重点テーマを加えるなど、6年間を通して様々な視点から考えられるよう、教材が選定されている。 ○ 生命を尊ぶ態度を養うことができるように、全学年で3つ以上の生命尊重に対応した教材が掲載されている。さらに低学年では、重点テーマとしてユニット教材が配置されており、学びが深められるよう工夫されている。 ＜考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫について＞ ○ 「問題を解決しよう」というてびきがあり、二分法だけでなく、問題解決的な学習ができ、児童が主体的に考え、深められるよう工夫されている。 △ 役割演技を促す指示が文章の途中に入っている教材もあるため、児童の活動が誘導的にならないような工夫がされるとよい。 ＜その他＞ ・フォントや分ち書きの工夫がされている。
光村図書	＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について＞ ○ 6年間を通して、様々な現代的課題に触れられるよう、多様な教材が選定されており、より考えを深められるよう、発問が工夫されている。 ○ 全学年で教材とコラムを合わせた情報モラルのユニット教材を配置し、情報機器を否定的に扱うのではなく、前向きに関わる態度を育成できるような問いを設定している。 ○ 「生命の尊さ」の教材では、全学年で生命の連続性、有限性などについて考え、「感じよういのち」のページで実感を伴った学びとなるよう工夫されている。 ＜考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫について＞ ○ 話し合いの方法や会話例、考えの道筋などがイラストで提示されているページが多く、どの児童も安心して発言できるよう工夫されている。 △ 児童が考え、議論するための手立てとなる思考ツールの紹介を導入するなどの工夫があるとよい。 ＜その他＞ ・学びの記録やシールを活用するのが難しい。

日本文教	＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について＞ ○ 全学年に発達の段階に応じた情報に関する教材や情報モラルを扱った教材が、コラムと組み合わせて掲載され、情報活用能力をはぐくむことができるよう配慮されている。 ○ 「生命の尊厳」にかかわる教材では、生命について多面的・多角的に考えられるよう、発達の段階に応じた教材が掲載されている。また、いじめ防止につながる教材を年3回に分けて集中的に取り扱っており、児童に繰り返し考えさせる工夫がされている。 △ 「生命の尊さ」の項目の教材が、高学年では、低・中学年より1つ少なくなっている。 ＜考え、議論する道德を通して、より豊かな道德性を育成するための工夫について＞ ○ アニメーションなどのQRコンテンツが充実しているため、ねらいとする道德的価値について全員が共通認識を持ったうえで話し合えるような工夫がされている。 ○ 具体的な役割演技の提案や登場人物の心情の変化を図式化して整理するなど、児童が主体的に話し合い多様な実践活動が行えるよう工夫されている。 ＜その他＞ ・道德ノートがついているため、ノートを書くことが義務的になる恐れがある。
光文書院	＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について＞ ○ 情報モラルは特に配慮が必要な項目ととらえ、全学年において情報モラルの教材やコラムを設け、身近な話題を通して、情報モラルを学習できるように配慮されている。 ○ 全学年で「生命の尊厳」を重点課題をとし複数時間構成で取り扱い、多面的・多角的に深く考えながら自他の命を大切にしていこう態度を育成できるように配慮されている。 ○ 多くの教材にレジリエンスの視点を持つことで、児童自身の「心の力」について考える工夫がなされ、全学年にコラムが設けられている。 ＜考え、議論する道德を通して、より豊かな道德性を育成するための工夫について＞ ○ 発達の段階に応じた思考ツールが掲載されているため、どの児童も共通の土俵で考え、議論することができるような工夫がされている。 ○ 考え、まとめ、広げるという授業展開の提案がされており授業で議論したことが日常生活で生かされるよう工夫されている。 ＜その他＞ ・児童の教材に対する理解を深めるための補助資料が充実している。
学研 Gakkenn	＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について＞ ○ 最重要テーマを「いのちの教育」とし、「いのちのユニット」では、異なる内容項目の教材を組み合わせ、多面的・多角的にテーマについて考えられるよう工夫されている。 △ 現代的な課題のなかでもジェンダー問題・性差の取扱いについての記述が少なく、記述の工夫が必要である。 △ 「いのちのユニット」では、2つの教材の内容項目の組み合わせの意図がわかりづらい学年がある。 ＜考え、議論する道德を通して、より豊かな道德性を育成するための工夫について＞ ○ 特定の価値観の押し付けや固定概念にとらわれないように、教材に対する主題名を記載しない工夫がされている。 △ 教材文は結末までを記載しているものが多い。結末を予想するなど児童の多様な意見を引き出すための工夫があるとよい。 ＜その他＞ ・心情表現が記述されている教材が多いため、思考が限定される可能性がある。

